

学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月23日(土) 午前10時00分～11時36分

会 場：本小牛田コミュニティセンター

出席者：住 民 21人(男17人、女4人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 成 澤 明 子

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さんおはようございます。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。只今から学校再編についての住民説明会を開会します。開会に当たりまして教育委員会後藤委員長から開会の挨拶を申し上げます。

《教育委員長(後藤)》

皆さん、おはようございます。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきまして以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

それでは学校再編の説明に入りたいと思いますが、皆様がお聴きされる中で、誰から説明を受けたのかわからないという状況ではいけないと思いますので、説明会に出席している委員、職員を自己紹介で紹介したいと思います。

(出席者6人が自己紹介をする。)

《課長補佐（早坂）》

それでは学校再編についての説明に早速入ってまいります。説明は須田教育次長から申し上げます。

《教育次長（須田）》

それでは私の方から、先ほど教育委員長が申しましたように、現段階におきます教育委員会の考え方として学校再編ビジョンというものを作成しました。学校再編ビジョンにある将来的な美里町における学校の姿、そちらの方について御紹介をさせていただきます。初めに、皆さんにお配りしております資料であります、次第と、それから左上で綴じております本日の資料であります。こちらの資料について御説明申し上げます。1枚目につきましては、本日から始まります町内8箇所での説明会の日程を下の方に載せています。それから中段には、これから御説明申し上げます学校再編ビジョンの骨子の部分の概要を書いています。骨子の部分から説明申し上げますと、中学校の再編については現在3校ある中学校を33年4月の開校を目標に1校に再編してはどうかという考えです。小学校の再編につきましても、時期はまだ明確に示していませんが、将来的には美里町は1校の小学校になってくであろうという考えであります。その経過措置として現在の中学校区3つありますがその中に小学校を1校ずつに統合、再編し、そしてその後3校を1校にするという経過を踏まえるという考えであります。下の開催日時、会場につきましてはご覧の通りでありまして、本日から、今日、明日、来週の土曜日と3日間、8会場で行ってまいります。それから、その下にコメ印(※)で書いていますが、各会場にはこの資料をこのまま置かせていただきまして、皆様に自由に持って帰っていただき、持って帰っていただくことによって皆様にお伝えすることができればと考えております。町内の幼稚園、小学校、中学校の父兄の方、保護者の方にこれをそれぞれ1部ずつ配布しております。それでは説明に入らせていただきます。めくっていただきまして、2枚目につきましては、先ほど教育委員長から御挨拶を申し上げた通りであります。これからいろいろな御意見をお聴きしながらですね、最終的に確定していきたいという考えであります。3枚目から、説明会の次第と書いていますがこちらが本日の説明会の本編であります。進め方については、開会、あいさつ、説明の内容について、ここは6つに分けました。最初は、中学校の再編をなぜ行うのか、2つ目は中学校をどのように再編するのか、3つ目は小学校の再編をなぜ行うのか、4点目は小学校をどのように再編するのか、5点目は再編に向けた費用について、それから今後の取組についてというように、6ページにまたがって資料を作成しております。その後ろには参考となるような児童生徒の現状、それから学校施設の現在の状況をまとめた資料を付けております。では、2ページをお開きください。①のなぜ中学校の再編を行うのか、初めに中学校の方からお話をしたいと思います。中学校の再編を行うということには、ほかにも理由があるのですが、大きく2つの理由があるという考えであります。まずは、少子化が進みますので生徒数の減少が進むであろうと、これが一つ目です。このことによって部活動が行いにくくなったりします。場合によっては、教科担当の先生が県から配置されますがクラスの数によって先生の総数

が決まりますので、総数の枠が小さくなるとすべての教科の専門の先生が県から配置されなくなるのではないかという心配があります。2点目については、学校施設の老朽化が進んでいるということです。現在も進んでいますが今後も更に進んでいくものと思います。この2つの大きな理由、教育委員会として優先して解決していかねばならないと考えています。次は右側の3ページ目であります。再編の内容、これは先ほど説明した通りの内容です。不動堂中学校、小牛田中学校、南郷中学校を再編して1校の中学校にしていきたい、仮称ですが美里中学校という名前を付けています。これら、①と②について皆様のご意見をお聴きできればと思います。次は4ページから小学校の再編を書いています。小学校も最初に再編の理由として、③に表記しています。こちら中学校と同じように少子化が進んで児童数が減っていくだろうと予想されます。それによって、1年生から6年生まで一つのクラスで、クラス替えがなく6年間過ごすよりは、2つ以上の複数のクラスがあってその中で学年ごとに入れ替えのできる学校をつくるべきではないかというのが小学校の再編を進めていく理由と考えています。小学校の再編につきましても、先ほどお話ししたことと関連しますが、早い時期に、不動堂中学校区ですと不動堂小学校と青生小学校を一つの小学校に、それから小牛田中学校区の小牛田小学校、北浦小学校、中塚小学校を一つにできないか、南郷中学校区には南郷小学校一つしかありませんので、この南郷小学校と再編した小学校を将来的には美里小学校という仮称ですが、一つの小学校にしていきたいという考えであります。こちらの方につきましても早く進めたいという思いはありますが、これから皆さんと話し合いを進めながら、皆さんの御意見を聴きながら、いつ頃にどのように、あるいは違った形も考えられるかと思えます。それらを皆さんと時間をかけて、回数をかけて話し合いを重ねて進めていきたいと思っています。どちらが優先というのはつけにくいのですが、現在教育委員会では中学校の再編が先ではないかと考えています。中学校の再編を進めて、それを追いかけるように平成32年くらいには決定して平成33年度以降には小学校についても始めなければならないという考えです。こちら小学校の再編についても忌憚のない御意見を皆様からお聴きしたいと考えています。次は6ページでございます。再編の事業費、いくらかかるのか、再編を進める場合に現在の学校施設を活用して行うのか、そのためには大規模改修が必要になってきます。あるいは、別に新しく校舎を建てるのか、これによって費用はかなり異なってきます。この比較を専門的な視点で調査をしていただいて、その費用比較を行っていきたくと思っています。今後の取組ですが、こうした事業費の積算をした上で比較をして、そして、再編の内容もそうありますが再編をする場合に現在の学校施設を使用するのか、あるいは新しく建てるのか、それらの再編の整備の方法の検討を今後併せて行っていきたくと思っています。そこには来年の1月と時期を書いておりますが、第2回目の住民説明会、第3回、4回もあろうかと思えます。早い時期に皆様との意見交換を行いながら、一つの目標として来年3月くらいまでにはある程度の具体的な内容を決めていきたいというのは教育委員会の希望と言いますか考え方であります。以上、教育委員会が話し合ってきた将来の学校再編のビジョンにつきまして主要の部分の説明申し上げました。これらを、先ほど

委員長からも申し上げましたように、一つのたたき台としてどしどしご意見をお聞かせいただければと思います。

資料は2枚になっています。ページにして3ページです。ページは振っていませんが1枚目には児童生徒の現状と推計ということで、おもてには現在の中学校の生徒数と33年に開校した場合の推計の生徒数を記載しています。下段にはそれぞれ学校ごとの部活動の部員数を記載しています。裏は、今回総合計画で推計されました目標人口を使いまして2060年まで児童生徒数の推計を載せた資料であります。それから最後であります、現在小学校が6校、中学校が3校であります。これらの建築年度、敷地面積、延べ床面積、右側のCRというのは普通教室の数です。これらを学校の将来の姿を考える場合に参考に見ていただければと思います。よろしく願いいたします。

《課長補佐（早坂）》

再編に関する考え方の概要を御説明させていただきましたが、皆様方の方から質疑、意見交換ということで、ざっくばらんにいただきたいと思いますが。

《男性》

2ページに、中学校がなぜ、再編するのかというレジュメがあります。その中に今後の生徒数の減少が進むことと書いてあります。私としては町民人口が減り続け、若い世代の町内への移入がほとんど考えられない、その上、大都市圏への転出が増え続け、そうした現象がリアルに迫ってきているとの町当局の分析は、町政自体が若い世代に魅力ある町をアピールできなかったのか、それとも、それらへの政策を熱心に考えてこなかったことへの裏返しではないのか。その事を棚上げして学校再編などの少子化の現象を町民に押し付けるような無謀な町政、教育委員会と言わざるをえないというような姿勢で私は参加しました。そして、この一つ目の理由は、今後生徒数の減少が進むことと書いてありますが、二つ目の理由として学校施設の老朽化が進んでいるとのこの2つを併記していますけれども、学校の老朽化というのはいつの時代だってあるのです。老朽化があつて、それぞれの学校を補強するのであれば、統合した方が安いのではないかというような論が最初からあったのではないか。そういう疑問を抱かざるをえません。

《課長補佐（早坂）》

只今の生徒数の減少が進むことと施設の老朽化に関する御意見をいただきました。関連する御意見はありますでしょうか。

《男性》

今の関連の質問で2つ目の理由ですね、学校施設の老朽化、今この資料を見ると、最後のページ、これですか老朽化についての資料は。これはいつも問題になるのですが、給食センターの時も問題になりました。学校の施設、主に建物ですけれども、老朽化とは何を基準にして老朽化と言うのですか。教育委員会の再編審議会である委員がシュミットハンマーでテストして、どの校舎もまだまだ使えます、老朽化していませんよという答えを教育委員会に出しているわけです。にもかかわらず、今これを見ても小学校よりも中学校が、南郷は36

年経ちますけれども、そのほかは中学校が小学校よりも新しいですね。今中学校を論じる時に学校施設うんぬん、校舎ですけれどもこれ老朽化進んでいる大きな理由になっているのですがどういう基準で老朽と言っているのか。これはきちっと整理すべきです。この辺を関連して質問いたします。

《課長補佐（早坂）》

ただ今、関連の質問とうことで、施設の老朽化についての御質問であったかと思えます。最初の方は、生徒数の減少、いわゆる人口の減少に対しての町の施策への意見という部分ですが、この辺について須田次長の方から。

《教育次長（須田）》

今お話しありましたこれまでの町づくりの中で、転出が多くなってしまっていると、そうしたまちづくりに対する反省がないのではないかというご指摘です。ご指摘のあった通りであります。今まで行ってきたまちづくりは、このような結果であって今後転出が続くというのを止めることはできませんでした。ですので、このまま止めるための施策は強化して行っていきますけれども、転出するというある程度の見込みの中で、転出していったこの推計の中で、どのような子どもたちの教育環境をつくるかというのも一緒に考えていかなければなりません。併せて、転出もしない人口が増えるまちづくりをしながら、しかし、推計として今後迎えるであろう少子化に備えた準備をしたいというのが、言い訳にはなりますが、そういう考えで小規模化していく小学校、中学校に対する対策を考えていかなければならないという状況です。2点目の老朽化、施設の関係でございます。老朽化の基準はないのかというご質問ですが、もし、あるとすれば建築してから何年経っているかということと、それぞれ一人ひとりが感じている印象だけです。これだけでは本当の基準として判断する材料になりませんので、今後ですね、専門家の設計士に見ていただいて、これからこの施設を例えば20年、30年使えることができるのか、あるいは、するのであればどれくらの改修の事業費がかかるのか、それを診断してもらって考えです。それで、老朽化、経年劣化といったいろいろな言葉はありますが、老朽化という言葉について何も基準は特にありませんが、教育委員会としては、今使っているそれぞれの施設の修繕、破損の状況、それらを見ながらこのような言葉を使わせていただいております。それから、お一人目の方から御質問のあった件ですが、確かに、今ある学校をそれぞれきちんと直して、あるいは新しい校舎を建てて整備していくというのが良いかと思えます。しかし、そこに、例えば100名、100名の児童がいる学校2つを1つの小学校をつくった方がそれは確かに安くなると思えます。しかし、100名、100名の2つの学校をつくるメリットもあれば、あるいは200名で1つの学校をつくるメリットもあると思えます。それでご指摘がありましたように、町としても安上がりだからそれを優先して選んでいるわけではありません。財政的な条件がありますので、100名、100名の2つの学校を建てるよりは200名の小学校を1つ建てることの財政的なメリットを判断材料にしていかなければならないと思えます。そして、あるいは、200名の小学校1つに統合することのデメリットがありますから、それらを比較しながら

らやっていくというのはこれから必要な事だと思います。はっきりと申し上げまして、財政的な要因というのは判断材料の大きな一つになってくると思っています。

《男性》

私が懸念したように、学校の施設の老朽化が進んでいるというのは、合併問題の第二次的な問題ではなくて、トップにくる理由であると今の説明を聴いてわかりました。2つ目として生徒数の減少をあげているというのが今の答弁を聴いてわかりました。ところで少子化を打破するために町教育委員会として様々な施策を行ってきたけれども、悉く（ことごとく）うまくいっていない。けれど、今もって政策を行っている部分もあるとのお話がありました。ところが、どういったことを今行っているのでしょうか。

《教育長（佐々木）》

今いろいろと御質問をいただきましたが、教育委員会で学校再編を考える大きな方針といえますか考え方があります。一つは、子どもたちの立場に立って進めて行こうとする考え方は。行政の関係で少子化になったので、そのしわ寄せによって学校再編なのか、言葉が間違ったら申し訳ありません、そういった御質問も先ほどありましたが、現実を見きわめて子どもたちは減っていることは確かなようです。それで、子どもたちの立場に立ってどうしたらよいのかという視点で進めてまいりました。もちろん、2点目としましては、住民の皆様にご説明を申し上げて、いろいろとお話を聴いてやっていくと、そして最終的には今、次長が申しましたように財政ですね、お金が関係してきます。そうした大きな3点で進めてきました。それで今、子どもたちを美里町に子どもたちが集まるように、少しでも子どもたちが来るために教育委員会としてどういうことを取り組んできたのかというご質問だと思いますが、町内に幼稚園3園、小学校6校、中学校3校ございます。現在、幼稚園、学校で子供たちが一生懸命頑張っています。学校に来て楽しかった、明日も学校に来て頑張りたい、幼稚園に来て頑張りたい、それが基本的な考え方は。とにかく学校の活性化、基礎的な学力も含めて、いわゆる豊かな心、それから健康面、我々は「生きる力」と表現していますが、充実した美里の幼稚園、小中学校を基本に、そういったことを取り組んで、美里の学校に転入したいと、震災絡みで転入している子どもさんもいますが、そういったことをまず基本としてやっています。特別に、美里の町の学校でこういうことをするからどんどん転入してくださいといったイベントとか大きなことはやっていませんが、毎日の地道な学校生活で最低でも現状維持、少しでも来て欲しいという願いを込めながら、やっているところであります。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ありませんか。

《男性（今野 3月まで学校に務めていた方）》

今回の説明会の中で一つ、小学校のデータが出ていないのではないですか。現状の学校と児童数、将来のは・・・、これが1つ。それから別紙資料の中にどうして部活動が出てくるのでしょうか。統合に部活動を出すのはやめてください。私の経験から部活動は学力と学校活動の活性化のためには現在ネックになっています。生徒によっても違いますが、2時間は

学校の活動が阻害されます。職員の仕事が阻害されます。ですから、このあげ方について、急にはできないでしょうが検討してください。1つ、要望です。もう少し長期的な見通しで、先ほども意見が出ていますが、子どもをいかに、すぐ目の前では減るのでしょうが、児童生徒数が回復してくるといいう見通しを立てて欲しい。それから、学校を活性化させるのであれば、先生たちに余裕を与えてください。子どもたちに余裕を与えてください。そのために部活動のことをさっき言いましたね。それから小学校は小学校で、いろいろと習い事、通い事とか、スポ少とかで子どもたちに余裕がないのではないのでしょうか。そこを見てください。そういうことがあって子どもが減っていくのと、なによりも大人が定着して、ここで生活をして子どもたちを育てていくのだという見通しを是非持ってください。これは、これからの再編と絡んで、絶対に必要なことだと思います。意見と要望を言います。

《課長補佐（早坂）》

はい、ただいま、小学校の児童の数字の部分がないよというご指摘と、中学校の部活動、あるいは小学校のスポ少などで先生方も大変だといった部分の御意見をいただいたというように思いますけれども、

《男性》

データがすぐに出なかったら今後から出すということ。

《教育長（佐々木）》

資料については大変失礼いたしました。平成27年度から33年度までのデータはありません。今日は準備してきませんでした。ちなみに、平成27年度の小学校の様子ですが、いわゆる一学年複数学級ですか、全部の学年が複数学級なのは不動堂小学校だけです。一学級35人、あるいは40人ですか。それ以外は、学年によって一学年二クラス、南郷ですと3つの学年が二クラス、多くてこれですね。それが平成32年頃になりますと一学年複数学級は不動堂小学校だけになります。あとの学校は一学年一学級となり、10名から20名、あるいは10名切る学年も出てきそうです。そういったシミュレーションがあります。それから2点目の中学校の部活動の問題、スポ少の問題、先生方、子どもたちにもうちょっとゆとりを持ってやるべきだと、まさに御指摘の通りであります。部活動の資料をここに載せましたのは、現に親御さんたちの中で、部活動はどうなっているのですかという特別の思いがあり、実態はどうなんだろうということ、あえて学校から実質を聴いてここに載せました。今、一つの学校で編成のできない種目もあります。2つで合同チームを作っている学校もありまして、生徒数が増えれば、当然子どもたちの希望する部活動の種類もできるのではないのでしょうかというお話し等もありましたので、資料として載せさせていただきました。もちろん、これが再編の理由になるとは考えていません。子どもたちの学校生活の中で、特に中学校の部活動の占める割合といいますかウエイトが大きいものです。現在、県中体連が始まっていますが、美里からも160名ほどの生徒が県大会に行っておりまして、子どもたちは子どもたちなりに頑張っていますし、傍らで先生たちは大変に忙しい、土日も返上して部活動の指導とかですね、確かに余裕のない状況のももちろん現場から聞こえてきています。教育

委員会としては、また、これは再編とは別にですね、子どもたち、指導者に余裕があり充実すれば、なお良くなるのではないかと、そういった御意見と御要望かと承っております。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんでしょうか。

《男性》

先ほどの老朽化の話は終わっていないですよ。

《課長補佐（早坂）》

老朽化については、基本的に明確な判断基準はないよということをお話しさせていただきました。それから、専門の業者に今後その部分について見ていただきたいという方針をお話ししたと思いますが。

《男性》

基準のない、曖昧のように、なんでも新設する時に必ず老朽化というのをどこの市町村でも出すんですよ、だからといって出していいものなのか、これは大人の都合で書いているもので子どもたちのためではないですよ。これは理由にならないです。それを言っているのです。耐用年数がどうと言っているが耐用年数がそのまま老朽化ではないですから。これは新しく建てるための理由にはならないです。前にも何回も言っているのですが、必ずこれが出てきています。

《教育次長（須田）》

その通りだと思います。ただ、教育委員会としては、今の小学校、中学校の建築後、かなりの年数が経っています。校舎、あるいは体育施設もです。大規模改修とか、あるいは建替えを近い将来にやらなければならないだろうという考えです。それは老朽化しているからどうのこうのではなくて、どういう基準で老朽化していると判断したからという理由ではなくて、もうすでに、子どもたちが学校生活をきちんと送っていける、今は環境整備ができていますが、学校生活がしっかりとできない時期が近い将来に来た場合には大規模改修をするか、あるいは建替えるか、そのいずれかをしなければいけないと思います。それで今回これを理由にしましたのは、1番目の理由、2番目の理由、どちらでも良いのですが、子どもたちのこと、生徒数が減っていくので、ただ建替えとか大規模改修とかの校舎の整備だけではなくて、学校の再編を含めた中で、子どもたちの学校教育環境の整備を進めようという考えで、施設が古くなってきているということを一つの理由にあげさせていただいているものです。

《男性》

それは過剰になるということで、老朽化ではないのです。

《教育次長（須田）》

使っている言葉が適切でなければ。

《男性》

はっきり言ったら、校舎なんかは100年持たせているのです。公有財産の長寿命化って

うのがあったでしょ、それで10年延ばそうと国でやっているんじゃないですか。だから、老朽化という言葉を使ってもらいたくないです。子どもたちの、中学生の行く末に関わるのです。

《教育次長（須田）》

確かに、老朽化という言葉は適切ではないかもしれませんが、一般的に皆さんにお伝えする場合、古くなっているということをお伝えしたいということです。それから、今、改修した時には10年ではなく国では30年と言っていますので、30年の長寿命化ができる施設なのかを専門家に見ていただくかなと思っています。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、御意見はありませんか。あるいは質問等でもかまいませんので。

《男性》

何点か教えて欲しいのですが、まず1点目は中学校の再編です。33年4月に開校というのですが、その33年4月にした理由というのはおそらくビジョンのどこかに書いているのですが、分からないのでその33年4月に開校しようとしている理由について説明をいただければと思います。それから、生活の関係で、子どもが学校に来るのが楽しいかどうかというのはまさにその通りですが、やはり子どもだけが町に住むわけではなくて、大人も一緒に町に住むわけです。大人の住みよい町にするというのがやはり重要だと思います。その時に、例えばですが、中学校を1校に再編した時に、住宅の分譲とかのお知らせを見ると「学校から〇〇分」というのが必ず書いてあります。仮に中学校が1校になった時に、どこに中学校ができるかはわかりませんが、学校まで徒歩なのか自転車なのかスクールバスなのかわかりませんが、これからここに人に住んでもうおうとした時に、住宅分譲のお知らせに「スクールバスで30分」だとなかなか外から入って来る人は難しいのかなと思います。再編の理由はいろいろあるかと思うのですが、やはり地元にあるという考え方も一応合わせた形で再編というものを検討していただければと思います。それから、人口の減少というのは、おそらく美里町だけではなく、ほかの町にも同じように課題を抱えていると思います。ほかの町はどういう方向性で今動いているのかということも併せて参考として示していただければわかりやすいのかなと、どこもおそらく同じような課題を抱えているとは思いますがこの町では今のままで4校、5校のままでいきますとか、そのためにこういうことをしますとか、そういうのも含めて課題を整理して方向性を決めていただければと思います。それから、新しい校舎か建替えかという時にも、新しい校舎と言うときにはまったく新しい場所に建てるという意味なのか、その場合33年の中学校を考えると、33年までに新しい校舎を建てる時にどこに建てるのか、それは町有地なのか、民有地なのかでまったく状況が変わってくるのかな、というものを含めて合わせて検討していただければと思います。それから、つまらない話ですが、住民説明会のお知らせで、資料を幼稚園、小中学校に配られたとのことですが、保育所には配っていないでしょうか。町には保育所もありますからそちらの方にも配っていただければと思います。もし、可能であれば認可外保育所にも配って

いただきたいと思います。

《課長補佐（早坂）》

ただいま、たくさん御意見、要望をいただきました。その中で大きいのが33年の開校の根拠を教えて欲しい、それから、学校が新築になるのであればどの辺になるのかということとそこまでの通学の時間等についての御質問と思います。それから、あくまでも要望ということでしょうけれども、再編するに当たっては地元で・・・なるということも考慮していただきたいと要望と意見という形で分けてお話をさせていただければと思います。

《男性》

今お答えできる部分はお答えしていただいて、ほかは別な機会でこういう説明会をする場合にそういった面もこういう資料に盛り込んでいただければという程度です。

《課長補佐（早坂）》

保育所への配布などは次回から対応させていただきますので。

《男性》

はい。

《教育長（佐々木）》

5点ほど質問ありがとうございました。1点目はなぜ33年4月に中学校の開校を目指しているのかという御質問だと思いますが、実は再編ビジョンの部分では小学校を先に着手したらいいのか、中学校をすべきか、2つの考え方で教育委員会としてはビジョンの策定の中に入れました。それで昨年ですね、このビジョンはどうですかということで町民の皆さんとの意見交換会を6回ほど実施しまして、その中で中学校を先にすべきではないですかといった意見などもいただいています。さらに中学校の校舎の現状を見た場合、どちらを優先すべきかと、そういった考え方で再編計画の中では中学校を先に、33年4月、やはり学校環境審議会からの答申でも5年サイクルでやるべきであろうといった答申などもいただいております。そういったものを総合的に判断して33年4月という設定をさせていただきました。それから、2点目の住みよいまちづくりということで、学校というのは大変影響するのではないかといったお話だったと思います。学校の建設する位置、通学方法はどうなるのですか、今教育委員会では何キロ以上はスクールバスとかいろいろ基準がございます。もちろん、スクールバスも視野に入れて検討しようという考えであります。なお、場所とかそういった部分については、今回8会場での説明会を実施し、どの方向に行くべきか教育委員会で議論をしなければいけないと思っていますので、現時点ではどこに建設するとかのようなことはまだ定まっておりません。それから3点目の人口減少を食い止めるために他の町でどのような対応をしているのかの情報はないのかとの御質問だったと思います。これについては、次長のほうから答弁させていただきます。そして4点目の新校舎を作る場合ですね、土地は町有地なのか私有地なのか、これも2点目と関係しておりますので先ほど申し上げた内容であります。最後の資料の配布ですね、保育所とかできるだけ多くの町民の方々に資料を配布した方が良いのではないかとこの要望をいただきました。ありが

とうございました。

《教育次長（須田）》

他の町でどのように動いているのかということにつきましては、教育委員会で栗原市の方に視察に行きました。涌谷町にもお邪魔をしていろいろとお話を聴いてきました。それで、先日、涌谷町のお話を聴いてきましたところ、幼稚園、小学校、中学校の再編がだいたい済んで、今改修している籠岳中学校の校舎に小里小学校と籠岳小学校の統合した小学校が移動すると完成となって終わるそうです。これは平成12年から構想をして住民の方に説明をし、幼稚園、小学校、中学校を含めた再編ビジョン全体を10年がかりで進めてきたそうです。すいません、平成15年からの間違いでした。その間、震災がありましたので、それによって2、3年は延びてしまったとのこと。やはり涌谷町もすでにそのような形で平成15年から動き出しているということです。それで、今、動き出しているのは大崎市です。登米市もしかりであります。近隣の市町村は、やはり、少子化、子どもたちが減っていくということが一つと、それから学校を建設した時期が昭和40年代前半です。同じように40年以上経過した校舎を相当持っていますから、その2つの理由から進められています。どちらかと言うと美里町は小中学校の再編については少し遅れていると思います。ですから、先ほど教育長からも申し上げましたように33年4月の開校というのは最短の時期かもしれませんが、できるだけ早い時期に、こうした校舎の古くなっている問題を含めながら早めに決めていかなければならないと思います。それから場所の問題ですが、もし仮に、新しく場所を求めて新しい校舎を作るという道筋で考えていきますと、広さとしては3ヘクタール以上の広さが必要と思っています。その3ヘクタール以上の土地は町（が所有している土地）にはありませんので、新たに取得するか、今の学校敷地を拡張するかのいずれかだと思います。場所は全く未定で、白紙の状態です。それで一番時間がかかるのは、新しく土地を求めてその土地が農業振興法等の規制があつて、それらの解除手続きを行うための期間です。そうした一番手続きが必要な事態を想定しながら土地の取得のための調査を進めております。場所はまだ決まっていません、仮に農業振興地域であったならば、どのような手続きにどれくらいの期間がかかって33年4月の開校に間に合うかということ进行调查しているところ。かなり厳しいは厳しいのですが、早めに意思決定をして目標の時期に間に合わせたいと考えています。

《男性》

それはわかります。だとすると、33年4月と新しい校舎というのは非常に厳しい状況なのかなと個人的には思います。今年度中にこうしますという方針を決めた時、33年4月までに開校する時に新しい校舎を建てるとなると、今お話されたように、とても33年4月までに校舎が建ってグラウンドまで整備されるというのは現実的には厳しいのかなと思います。現在、震災の復興などで動いている状況の中で、この大規模の工事をするというのは非常に厳しいのではないかなと思ったので、最初に33年4月って、なぜですかと聞きました。33年4月に縛られるとそういった観点は消去法で削られていって、今の校舎の大規模改修

にせざるをえないというような結論に出たりもするので、33年有りきなのか、校舎の新築有りきなのか、その辺はもう少し柔軟に検討をしていただいた方が、より良い方向に進めようとするならばそういう縛りをなくし、もう少し柔軟に対応した方が良いと思いました。

《教育次長（須田）》

その通りです。

《男性》

少子化の対策について、他の自治体ではどのようなことをされているかとお尋ねされたと思いますが、一つ紹介させていただきたいと思います。今年の6月9日の毎日新聞の1面と社会面に載ったもので、「消滅可能都市で人口増、子育て優遇、全国から移住者」という見出しの下で、細やかな移住支援、島根県邑南町のことが紹介されています。一部を読ませていただきます。『邑南町は実は2004年に2町1村が合併してできた。石橋町長は「周辺部をさびれさせてはいけない」と県議から転身。国の「選択と集中」とはまったく逆の道を歩む。町内12の地区公民館に職員を3人ずつ平等に置く。小学校の統廃合も1校にとどめ、児童14～145人の小規模校を8校維持する。住民の判断や役割分担を尊重すべきだ。地域の核となる学校を行政が勝手に統廃合してはならない」と、トップダウンの効率化に警鐘を鳴らす。安倍政権が打ち出す地方創生の陰で国は昨年、公立小規模校を統廃合に導くガイドラインを定めた。石橋町長は「1億総活躍は都会重視。学校のない地域に子育て世代はこない」と地方切り捨てにもつながりかねない政府の姿勢を懸念する。』というような記事が載っていました。まったくその通りだと思います。やはり教育行政と自治体の幹部の人達が一堂に会して町政と教育委員会が推し進めていこうとしていることが上手く合致できるような方策を練り上げていただきたいと思います。政治の面で言えば、今紹介したこの町は、中学生までは医療費が無料とか、第2子以降の保育料無料とか、保育園の完全給食とか、そういう若い世代が消滅可能な都市に移住したくなるような政策を打ち出してきているところもきちんと、行政当局は見習うべきではないかなと私は思います。一応、紹介させていただきました。

《課長補佐（早坂）》

只今の件に関しましては、人口の減少、児童数の減少と言った問題への対策、それから行政と教育行政が一体となったまちづくりの紹介と御助言として捉えていただいてよろしいですか。

《男性》

はい。

《課長補佐（早坂）》

それでは、そのほか御意見、御質問等はないでしょうか。

《男性》

説明の文言で気にかかったところがあります。それは4ページの③、なぜ小学校の再編を行うのか、回答の理由の中で、「教育委員会では」の下、カギカッコで括られています、

ラス替えのできる小学校を早く作る必要があります」となっていますが、それは私には理解できません。私が大尊敬しているある80歳を過ぎた元小学校の校長先生であった人は、平和運動に一生懸命です。その人が育った時は1学級だったそうです。クラス替えがなければ、クラス替えのあった学校と比べてどうなのか、そういう具体的などころがないので、なぜ、このことを書き入れたのかどうかまったく意味がわかりません。再編の理由になりえるのかどうか、書いた方にお尋ねをしたいと思います。

《教育長（佐々木）》

早くというところがかかなり気になされたようでありますが、表現の仕方ですね、その部分については、できるだけ早くと言いますか、曖昧な言い方になりますが。なぜ、クラス替えのできる規模の学校が必要なのかという御質問であります。現在もクラス替えのできない学校がだいぶありますが、いろいろな情報を私のところにありまして小規模校は小規模校同士で交流事業をしたり、そして、子どもたちにいろいろな子との交流を深めて社会性、切磋琢磨という言葉が使われますが、そういったことで少しでも子ども達の成長を期待したいという考え方で交流事業をやっている学校もあります。美里町ではなかなかまだそこまではできない状況であります。やはり今後ですね隣の学校との交流事業とか。幼稚園では、例えば、こごた幼稚園ですと3つの小学校が皆一緒になるのですね、幼稚園を卒園した時は3つの小学校にバラバラになる、そして中学校に入る時にまた一つになると、そういった変則的なスタイルになっていますが、それは話が横にそれましたけれども。やはり、1年生から6年生まで同じクラスでなんで駄目なのかと言われれば、コレコレだから駄目です、とは言えません。ただ、むしろクラス替えができれば先ほど申し上げましたようにいろいろな友達と接することができる、その中で、コミュニケーションの仕方、いわゆる社会性ですね、そういったことを是非身につけていただきたいと思います。特に、一人っ子、兄弟の少ない時代です。ですから、いろいろな友達と遊んだり勉強することによって、それが将来大きく役に立つであろうと、そういった大きな考え方があります。ですから、できればそういった環境を教育委員会としては整えたいという考えであります。今、家庭に帰っても一人でゲームをしたり、地域で遊ぶとかそういった姿はあまり見られません。外で遊ぶ姿もだいぶ少なくなってきております。体力の問題等々にも関係してくるのかなと懸念しているところであります。そういったことなどもトータル的に検討して、答申をいただき、そして再編ビジョンを策定し、小学校を、今すぐではないのですが、現段階では中学校の方を先に、着手して小学校も、今日決めたから明日とはいきませんので、時間をかけてじっくり、地域の大事なことであると思われまますので、取り組んでいかなければならないという考えであります。

《男性》

只今の発言は、教育委員会の重責を担っている方の発言とはとても思われません。あまりにもひどすぎます。というのは、一つは現に複式学級の学校とか分校とか、それから離島で兄弟2人しかいないとか、さまざまな困難を抱えている小規模の学級、学校があることを念頭にあるのでしょうか。それから、先ほど私が紹介した邑南町では、調べたわけではありませ

んが、たぶんクラス替えはないでしょう。1学級というところが多いでしょう。そして日本全体で見てもそういう小学校なら小学校、入学から卒業まで同じ同士だったという子が何十%、何割かはいると思います。そういう状況が無視したかのような答弁の終わりようというのは私は非常に疑問に感じます。

《教育長（佐々木）》

決して無視したわけではありません。複式学級、特に沿岸部等では地理的な条件から厳しいこと、そういったことも私は認識をしております。美里町の実態を踏まえてどうしたら良いのかということで考えておりますので御理解いただきたいと思います。

《教育次長（須田）》

回答にはならないかと思いますが、今御指摘いただきましたように、いろいろな教育の価値観とでも言いますか、どう言ったら良いのか、多様な価値観があると思います。ただし、お子さんというのは、小学校は一生に一度、中学校も一生に一度しか通過しません。その中で、子どもさんと御父兄の方がどのような学校の形態を選ぶというのは、それぞれ自分の考えで選択できる環境が一番ベストだと思います。選択制であるべきだと私は思います。しかし、それぞれの価値観に対応できる学校環境を美里町が町立学校としてすべて整備することはたいへんです。これは財政的にたいへんです。ここで財政的な縛りが出てきます。であるならば、まずは、スタンダードな複数学級で1年生から6年生まで同じ顔でいくというのではなくてクラス替えができるというのがやはり一番スタンダードではないか、特に理由はないのですが一般的に人の交わりが多かったり、あるいは、学年ごとに環境が変わったりとかでいろいろな問題に対応できるスタンダードな学校をまずは一つ作りたいということです。それでこのような表現をさせていただきました。このまま放っとけば、いずれすべての学校はクラス替えができなくなってしまうということをここで言いたかったのです。

《男性》

東京では学校の選択制があるではないですか、あれはちょっといろいろな歪が出ています。よく調べてください。それから先ほど言いましたようにいろいろな切磋琢磨とか学校の交流とか先ほど言いましたスポ少とか、学校の枠を超えて今は子ども達はいろいろな接触到機会があります。かつてと違って自家用車が普及していますのでいろいろなところに出かけています。そういうことを踏まえた上で社会性とか地域どうのというのを考えて欲しいです。かつての子どもの状況とはかなり変化しています。今のポケモンGOのような電子ゲームで日本とか世界がつながっているような、ただバーチャルですね、ではなくて人間同士の触れ合い型の学校ということで、できれば私は現状を維持しつつ、財政の説明をして校舎改築とか、それから職員の配置となるとどうしても県とか国に要望しなければならないですね。そういったことも踏まえて、見通した上で当面は現状維持、それから少子化回復という道に進んでいただきたいという意見を申し上げさせていただきます。

《課長補佐（早坂）》

クラス替えのことにつきましては教育委員会の会議の中でいろいろと議論をした中で、い

じめについては子ども達にも相性というものがありますから、複数のクラスがあつてクラス替えができる方が子ども達にとって救われることもあるであろうということで、こういった部分の文言になっていたと記憶しておりますので、御説明をさせていただきたいと思ひます。

《男性》

いじめの問題を教職員全体、学校全体の問題として捉えていけば、クラス替えがあろうがなかろうがいじめの問題は解決できるのではないのでしょうか。そのいじめを解決するためにどうしてもクラス替えが必要だと聞こえてくるのですが、それとこれとは別の次元の話ではないですか。

《課長補佐（早坂）》

そういった事例もあるということで、そのような部分も含んでいますよとの説明です。

《男性》

いろいろな事例がある中でそれしか言わないということは強調していることにほかならないので話し方を教育委員会では注意をして話をしてください。

《課長補佐（早坂）》

いじめだけではなく、相性の部分もあるということでお話をさせていただきました。言葉が足りない部分については勉強させていただきます。

そのほか、何か御質問ありませんか。

《男性》

審議会で前に検討した時に、南郷は小中一貫の教育もありえると、それは今はないんですか。途中経過がぜんぜんわかりません。

《課長補佐（早坂）》

小中一貫教育について、その部分について説明をして欲しいということですね。

《教育次長（須田）》

南郷が小中一貫でという考えはあります。ここで、消去しているわけではありません。将来的には美里町は1校になるであろうと、これが決定、確定したものではありません。南郷のケースであれば小中一貫校をやってみたらどうですかという意見をきちんと出していただければ、それは消したからもうないですよということではありません。

《男性》

それをやるということで、前にでていたわけですから、なぜ消えたのですか、その理由を聴きたいのです。

《教育次長（須田）》

学校教育環境審議会の答申の中に入っていて、それに対して教育委員会ではまだ結論を出しておらず、それを含めて考えていきたいと思ひます。ですので、そうした意見があればそのような意見を出していただければ、という今日の会議であります。

《男性》

いつまでもそれを避けてやっていたら、統一中学校の話はここに出てこないですよ。それではなくて統一中学校をやるんだとしなければ、堂々巡りになってしまうのではないですか。

《委員長（後藤）》

小中一貫校については、教育委員会としては課題が多すぎるのではないかと、また、過渡期の状態であるので、教育委員会としてはもう少しいろいろと考える必要があるのではないかということです。具体的には南郷の場合で、南郷を小中一貫校にした場合に少子化に耐えられるかどうか、その辺のところを考えると教育委員会では、今日皆様に御提案を申し上げました。そういうことで、町民の意見を聴きましょう、それからまた考えます、そういうことでやっています。

《男性》

それを説明していないから。そういうことを説明してそれでこうなりましたというならわかります。これを南郷に行って言ったら通用しないです。

《委員長（後藤）》

その辺のところも今日どういうふうな説明会をするかということで、できるだけ教育委員会からの説明を簡潔にして、それで町民の方の意見を聴くことが大事ではないかということで、説明はできるだけ簡潔にして、質問がある時に説明をしましょうということで今日第1回を行っています。

《男性》

教育長には前から、小中一貫校の説明をお願いをしておりました。ここだけではなく南郷辺りではそのことが出てくると思います。（その経過が）ぜんぜん、わかりませんから。

《教育長（佐々木）》

環境審議会では確かに話が出ました。教育委員会では答申を受けて再編ビジョンを策定しました。ビジョンの時にはこういう形で意見交換会の時にお示しをしております。「中学校につきましては平成28年度において望ましい規模の中学校が存在しないために3校を再編対象とします。そして、皆さんの御意見をおうかがいします。」そして、「南郷小学校、南郷中学校の施設分離型小中一貫校については、更に検討を進めてまいります。」というビジョンでお話をしております。その後、教育委員会として、中学校を再編するに当たっては3つで進めていきたいと思いますという結論に至り今説明会を行っているわけであります。もちろん、こういったことを説明し、いっぱい意見をいただき、当然、御意見にもありましたように小中一貫校の話も出てくると思います。それは御意見として承っていかなければならないという考えであります。

《男性》

これを検討しますと言っているながら、それを説明しないで、「こう決まりましたよ」ってことはないでしょ。それを言っているんですよ、私は。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんか。

《教育委員（成澤）》

さっき、ポケモンGOの話がありましたが、若い人たちはだいぶその世界へ浸っているのではないかなと思います。今日のような土曜日という貴重な時間に、こうして集まっていたいろいろな御意見を聴かせていただくということは、私はたいへんうれしく思います。新しいものを作る上であるので、すぐに結論が出ないのですが、子ども達にとっても、教員にとっても、住民にとっても、よりよいものができるようにということで話合いの場を持っていますので、実際に保護者として、学校の中のいろいろなことを知っていらっしゃる保護者の皆さんのお考えと伺いますか、御意見をおうかがいできたらうれしいと思います。よろしくをお願いします。

《女性》

私は娘が今、中塚小学校に通っていますが、東日本大震災の大地震のために、やっぱり建物は何らかのダメージを受けているのを見てわかる場所があります。私は娘をこっちに転園させて、小学校に入学させた時に、実際に中塚小学校のコンクリートの横がこうひびが入って盛り上がっているところを見て、ここに子どもを預けることに不安を感じました。ほかの小学校の建物でも東日本大震災の大地震で何らかのダメージは受けていると思います。子ども達が本当にこの先、安全に学校生活を送らせたいので、先ほどもお話がありましたように、まずは専門の方に耐震などの建物の調査をしてからの話だと思いますので、まずは保護者としては子ども達の命を守る建物であるかどうか、そこが一番だと私は思うので、人数が多いとか少ないとか、多いなりに良いところもあれば難しいところもあれば、人数が少ないところで良いところもあれば難しいところもあると思います。人数がどうのこのよりも、やはり子どもの命を守る建物、安全に学校生活を送らせたい、それが親の望みです。それが一番の思いです。

《女性》

今までの話を聴いていてちょっと疑問に思ったのですが、小学校と中学校を一枚に統合した場合の児童生徒にかかる通学の上での負担というのはどうなるのかなと思いました。美里町は東西に長いので、極端な話ですが、東か西のどちらかに学校ができた時に、反対側の地域の子どもが通う時間はバスで1時間以上かかるようになるのではないですか。そうなった場合、朝もそうですし、帰りもそうですが、中学校になったら学習時間というものも必要ではないですか、そうなった場合に通学にかかる負担というものを考えないと、子ども達にとってその時間がかかりロスしますよね、そういったことも考える必要があると思います。だからと言って町内の真ん中につくるとなるとしても良い具合に土地が見つかるのか、逆に真ん中の方に学校があることによってそこに人口が集中してしまって、町の端の方が廃れてしまったら意味がないような気がします。そういった将来的な町の繁栄というか、そういったことも考えて本当に1校で良いのかということを考える必要があると思います。

《教育長（佐々木）》

ありがとうございます。1点目につきましてはまさにその通りだと思います。これは学校

再編の以前の問題であり毎日の学校生活に是非必要なものでありまして、私どもが何よりも最優先していくのは子ども達の安心安全な学校生活をどうすべきかと、その整備等に集中して取り組んでいるところであります。今後も続けていきたいと思っております。それからお二人目の御意見ですが、通学の問題、美里町は細長いですね、そういった町の状況ですがこれから住民説明会で御意見を聴いて、そういったことも当然出てくると思っております。場所によって通学の問題はどうするんだと、先ほど申し上げましたが、中学校はスクールバスはございません。徒歩か自転車です、3つの中学校ですね。当然に統合になった場合には距離の問題が出てきますので、スクールバスの準備はしなければならないという覚悟ではおります。それから学校が中央に行くとは端々の地域の活性化だと思っておりますが、そのへんはどうなるのでしょうか、たいへん難しい問題であります。学校と地域、これは大きな課題であります。そのためにも、いろいろと皆さんとお話をしながら進めていかなくてはいけないなというふうに考えております。回答になりませんが、そういった考えでありますので御理解をお願いいたします。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんか。なければ、皆様から御意見をいただきました学校再編についての住民説明会をこのへんで閉じていきたいと思っております。閉会に当たりまして佐々木教育長から閉会の挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

一言、御礼の御挨拶を申し上げます。20名を超える住民の方々にお集まりいただき、たいへん土曜日の貴重な時間、ありがとうございました。今日いただいたいろいろな御意見、要望等を、本小牛田地区の要望としてこちらで記録していきます。これから午後は北浦、夜は中塚と、この会場がスタートであります。地域の方々、住民の方々の考えをじゅうぶんお聴きをして、子ども達にとってどうあるべきなのか、教育委員会としても更に検討し、取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げます御礼、閉会の挨拶に替えさせていただきます。本日はありがとうございました。

《男性》

今後の説明会はどうなるのですか、第1回目の説明会を開いたということは当然町民に知らせるでしょうし、全説明会が終わった段階では、どのように今後は進めていくのか。

《教育次長（須田）》

今回の説明会はこちらの会場が1か所目で、それから2か所目、3か所目と8箇所です皆さんの御意見を聴きまして、これらの内容について教育委員会でまとめていきます。ですので、今日説明させていただいたものが場合によっては会場をまわって行って皆さんの意見で変わることも十分あります。それについてはきちんと説明を加えて、このような考えであったけれども、こうした考え方の意見が多いので、そちらの方も含めて考えているというように皆さんにお知らせをしながら進めていきます。それから、先ほど1月に第2回目の説明会と

お話ししましたが、内容の変更も出てくれば説明にまいます。なお、本日は住民の皆様から御意見をいただきましたが、幼稚園、小学校、中学校の保護者に対象を絞って、PTAにお願いしながら9月くらいに説明会、意見を聴く懇談会等を開催する予定です。何度も回数を重ねながら、方向が変わったら変わったなりにきちんと説明にまいますのでよろしくお願ひしたいと思います。

《男性》

説明会のそれぞれの意見を冊子にまとめることはしないのですか。

《教育次長（須田）》

冊子にまとめても配るのがたいへんですので、ホームページの方に掲載させていただきます。しかし、お話いただいたものをすべてそのまま掲載するのではなく要点筆記の形でさせていただきますと思います。